年間授業計画　新様式例

# 高等学校 令和６年度（２学年用） 教科　　芸術　　科目　書道Ⅱ

教　科：芸術　　科　目：書道Ⅱ　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　5 組～　8 組

使用教科書：（ 教育図書　「書Ⅱ」　　）

教科　　芸術　　の目標：豊かな表現力を身に着ける

【知識及び技能】意図に基づいて表現する技能を身に付けている

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫し、芸術のよさや美しさを深く味わっている

【学びに向かう力、人間性等】書道に親しみ芸術を愛好する心情を育むとともに、心豊かな生活や社会を創造する態度を養う

科目　書道Ⅱ　　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 書表現の方法や形式を古典から学び取っている。創造的に表現するための技能をみにつけている。 | 自分の感じたことを創作活動で表現している。作品の鑑賞を通して書の味わいを深く捉えている。 | 心豊かな生活を営むよう主体的に・創造的に取り組み、自己表現を主体的に行おうとしている。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | 行書の学習<br>執筆法、筆の構え方を意識し、線の方向・筆圧・間隔を観察し運筆する | ・小野道風の（智証大師諡号勅書）学習。太い豊かな線を表現。<br>・藤原行成の（白氏詩巻）の学習。<br>太い細い抑揚豊かな用筆を表現する。転折の用筆を意識する。 | 唐様との比較で和様の味わいを理解できている。和様の用筆（力まずに抑揚を活用した運筆が身についている。） | ○ | ○ | ○ | 16 |
| | 行書の作品創作<br>和様の表現を活用した作品創作をゆっくりした運筆で表現する | 紙面構成（文字の大きさ・線の太さ）や和様の用筆表現を意識して作品表現する。 | 和様の書の特徴を理解している。用筆技能を身に付けて表現している。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | | | | | | | |
| 2学期 | 楷書の学習<br>隷書からの書体の変遷を追って用筆の変化・表現された古典の美しさを味わう。<br>隷書・草書の学習<br>曹全碑、十七帖・書譜 | 爨宝子碑、北魏時代の始平公造像記・張猛龍碑、孟法師碑の古典から美しさを臨書して味わう。隷書・草書の古典臨書から書体の変遷による表現の違いを理解し学習している | 書道Ⅰでの学習をさらに深め、書体の変遷を理解し、表現の違いを意識してがくしゅうしている。時代背景を理解し、用筆法の違いを理解し身に付けている。 | ○ | ○ | ○ | 18 |
| | 作品創作<br>隷書、草書、楷書より書体を選定し作品表現をする。 | 自己表現に適した書体を臨書学習を通して味わいを深める。 | 書体による用筆法を理解し作品創作に取り組んでいる。 | ○ | ○ | ○ | 12 |
| | | | | | | | |
| 3学期 | 仮名の学習　仮名の執筆法を理解し身に付ける。連綿の表現を理解する。散らし書きの表現を作品に活用する。 | 執筆法・連綿表現を古筆（関戸本古今和歌集・高野切第一種）の臨書を通して身に付ける。散らし書き表現を古筆（升色紙・寸松庵色紙）から活用する。 | 古筆の用筆法を理解し表現している。執筆法構え方を意識し運筆する。連綿の筆圧・文字間隔を意識し表現している。 | ○ | ○ | ○ | 8 |
| | 仮名作品の創作<br>和歌一首を用いて行う。古筆の学習を踏まえて、自己作品に取り組んでいる。 | 執筆法・連綿表現・文字の間隔・間隔の余白を意識する。紙面構成を臨書を応用し表現する。 | 古筆の学習を通して用筆法を意識し、筆圧を意識して運筆をする。紙面に対する行の流れ余白を意識しバランスよく表現している。 | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | 合計<br>70 |